

あがたい 縣居翁・賀茂真淵は郷土の誇り、日本の宝

ご挨拶

賀茂真淵翁遺徳顕彰会 会長 山下智之

みたらしに

澄るもおなし 影ならむ

岡部の里に 見し秋の月

賀茂真淵

今年賀茂真淵没後の二五〇年目となります。奇しくも改元の年ということもあり、感慨深いものがあります。縣居神社には「賀茂大人霊祭式」という昭和九年二月五日に発行された小冊子があり、そこには二〇〇年前の文政元年（二八一八）に有玉村の国学者高林方朗を始め、石塚龍麿・夏目麿・小国重年・中山吉植・小栗広伴・松島茂岡・石川依平・藤田武鞆・関大和・森寿治・杉浦葛麿・波多完・有賀豊秋・竹村広蔭ら五十四名の没後の弟子達が五十年霊祭を斎行し、伊勢の本居春庭ら約三〇〇人の弔祭歌を奏上し、わが国に国学の重要性を説いていました。冒頭の賀茂直慶は京において、真淵の没後五〇年の弔祭歌を奏上しました。

本年度は没後の二五〇年目を柱として、昭和十一年（一九三六）に制作された静岡県愛唱歌集の「賀茂真淵」という題の歌の歌碑を建立し、来る十月三〇日に二五〇年祭の後、除幕を致します。

皆様と共に真淵の功績を再認識し、その啓蒙のために一層の努力をして前に進めてまいります。今後ともご教示とご意見を賜りますようお願い申し上げます。

令和元年度代議員会承認事項

- (1) 入会状況および理事の承認
- (2) 平成三〇年度事業活動報告
- (3) 平成三〇年度収支決算報告・監査報告
- (4) 令和元年度事業計画
- (5) 令和元年度予算案
- (6) 賀茂真淵翁没後二五〇年記念事業案



賀茂真淵翁没後250年記念事業

建立する歌碑の歌は、静岡県郷土唱歌より「賀茂真淵」一番です。歌碑に刻まれる文字は、有馬朗人先生直筆のものになります。

古き百千の 國つ文
正しく深く ときあかし
とぎせる雲を ひらきたる
すぐれしわざを たへばや

10月30日の除幕式には、来賓として有馬朗人先生、北脇保之様をご招待します。また、「賀茂真淵」「初代 浜松市歌」の歌唱披露を、地元音楽家の玉川昌幸様、舟橋弘子様をお願いしてあります。

大宮人の 旅衣
入りみだれけむ 萩原の
昔つばらに たづねつる
翁をしのべ 書よまば

今後の主な行事予定

- 【令和元年10月7日（月）～8日（火）】東京「賀茂真淵翁ゆかりの地」訪問・研修
- 【令和元年10月30日（月）】例大祭 賀茂真淵翁没後250年記念事業 歌碑除幕式
- 【令和2年1月1日（水）】新年祭 元旦0時30分より
- 【令和2年3月4日（水）】生誕祭 記念講演

賀茂真淵翁を知ろう（10） 実父政信の死と真淵の出郷

享保17年（1732）真淵36歳の5月、実父岡部政信が79歳で亡くなった。政信は、農事などに忙しいながらも杉浦家和歌会に出るなど風雅を好む人だった。加えて、勤勉努力家で本家の二郎左衛門家の借金三百両を甥の政長と力を合わせてうめ、岡部家を復興させた。このような政信の資質が真淵にも流れていたであろう。真淵は父の死を悲しんで次のように詠った。

浪の上をこぎ行く舟の跡もなき
人を見ぬめのうらぞ悲しき

翌享保18年、真淵は浜松梅屋本陣の帳場を捨てて、京伏見の荷田春満（かだのあずままる）の許に行く。真淵が出郷した折

の事情は次のように書かれている。

「初め翁は京師に出たいと密に父に問うが受けず、家事通れがたく嘆息して患ふ。妻その意を察知し、患うことなかれ、妾（わらわ）よく家を護り、万事務めん。君（きみ）非凡の才あり。家を出て志を遂げ名を天下に顕はし給へ。これ妾が希ふところ」

こうして、万事を託して京に向かったが、その後、真淵と梅屋家の関係は微妙になったようで、真淵44歳の帰省の際は梅屋家に寄らず伊場の実家に帰っている。梅屋の妻は父と夫の間で身を粉にして励んだが、45歳くらいで真淵に看取られることなく亡くなった。

賀茂真淵翁を知ろう（11） 京伏見で荷田春満に学ぶ

京に出た真淵は、荷田家の人々との交わりを通じ、自らを鍛え、頭角を現し、荷田春満の学問の大成にいそしんだ。享保18年に荷田家和歌会に春栖（はるすみ）として出席した記録がある。その後、享保20年には百人一首の講義代行をするほどになった。

春満の学問は「万葉集を研究し味読するには、万葉の世界に直に分け入り、万葉風の歌を詠み、万葉風の書き方をして万葉人になりきろう」とし、真淵等はそれを実践した。

享保20年真淵39歳の歌
潮曇り入り江の暮に鳴く声を
聞くは千鳥の見らく少なき

春満は、契沖の「万葉代匠記」などを学び、古典・国史を通して古道の解明を試み、万葉集・日本書紀・古事記等の研究の基礎を築いた。元禄13年（1700）江戸に出て武士たちに歌学や新道の授業を行った。享保8年（1723）將軍吉宗に招かれ幕臣として4年間仕えた。

享保13年著作「創学校啓」を幕府に献じて国学の学校建設の必要性を訴えた。

現在、伏見稲荷大社に隣接して東丸（あずままる）神社があり、「学問向上」「受検合格」の神様として尊崇されている。